

平成 24 年 7 月 24 日

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原 1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 025-794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address. http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

2011（確定値）/2012（速報値）オランダ産百合球根作付面積表発行について

その2

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

百合栽培面積表の品目別/系統別の合計面積表が発行となりましたのでご案内いたします。

合計表

①開花球面積 3,485.34ha

*推定 170~180ha の 2N 鱗片栽培面積が含まれていると考えられる。したがって約 3,310ha くらい。

これは 2005 年又は 2008 年の作付水準。

当時の南半球産の栽培面積/フランスその他の国の栽培面積の記録はないが、現在の経済状況を鑑みれば、まだ多い様な気がする。

但し、Plamv 対策/LMOV 対策と考え合わせれば、この面積の内いったいどのくらいの面積を通常流通できるのかは不明。

仮に 2009/2010 年くらいの面積が有効面積であって尚且つ作況が悪くなれば、球根不足となる可能性もある。（あくまでも Plamv 対策がきちんと立てられている球根についてのお話です。）

生産された球根は誰かがどこかに販売することになると思われるので、国際市場的には過剰感は残ると考えられます。（Plamv 球根も行き先を見つけてしまうという意味です。）

②鱗片養成面積 303.11ha

温室内養成面積の増加。あくまでも推定だが、2N 鱗片栽培面積を考え合わせれば、昨年とほぼ横ばいと言える。相当な面積が廃棄されることになると思うし、そうなることを願う。13/14/15 年の品質改善の為に…。

③温室内養成 11.67ha

増加したことはありがたい。但し、この中に日本向け品種の割合がどの程度含まれているのか？

0.T 系のシェアが 68%を超えている。ショック！！

①、②で、現在または将来廃棄される面積の中に含まれる日本向け品種の割合は？…不明です。

品目別

前回公開されて面積表では、非公開品種の栽培面積表が、品目別/系統別に分かれていない。

今回の資料で品目別の動きが見えてくる。（品種別・色別はダメなんです…。）

①A.H/L.A…面積の減少が足りないように見える。

やはり白・オレンジの増加が気になる。どちらの花色もメキシコを中心とした新興国で重要な花色。

新興消費国以外で需要のある花色は、大きく減少しているという事なのでしょう。

日本向けオレンジの面積に限って言えば、増加していませんしね！

0.T には、淡ピンクの品種がまだ少ない。赤系の 0.T は増加。A.H/L.A の赤系も減少していない。

公表されている 0.H 系ピンクの面積の減少率は、2.07%と少ないが、非公開品種の中のピンクの割合は減少していると考えられる。

ピンクが減少している…。

ここでも日本離れが確認されるが、今の日本の球根消費からいけばこれで良いのではないかとも思います。

②O.H/O.T…思いのほか、O.H系の面積減少が大きい。

Plamv 対策/LMOV 対策を考えれば…作況にもよりますね…。良い物は不足？

公開品種での面積減少は、 76.55ha △5.1%

非公開品種を含めた面積減少は、 107.56ha △6.4%

非公開品種の中のO.H/O.T系白の割合が増加している？

非公開品種の中のO.H系ピンクの割合が減少している？

ここの分析が重要なのだと思います。

やはりO.T系は伸びていました。4.45ha増加 +1.18% (公開品種だけなら減少だった。)

温室内面積のうち、大きな面積を占めているのがO.T系(全体の68.5%)本当にこれで良いのか？

鱗片面積は、O.H系2.8%増加

O.T系18.3%増加

O.T系の増殖速度を考えれば、13年以降のO.H系/O.T系の開花球面積割合は、今までのそれとはずいぶん違う事になる様に見えます。

2012年産速報値においては、開花球+2N鱗片面積比較で

O.H:O.T =1,572.35 : 381.31

80 : 20 となっています。

1999年では

A.H:L.A =1,705.04 : 277.45

86 : 14

だった割合が、ほぼ50:50の割合になったのが2005年くらいです。6年間かかってシェアが互角となり、その7年後の

2012年現在 30 : 70 となっている様です。

日本やヨーロッパ、アメリカなどの今や旧先進国と言って良い国の需要形態から言えば、今後O.H:O.TのバランスがA.H:L.Aのそれと同様な変化を遂げる事は、現状では考えられないと思います。

はたしてこれからの5年間、又はその後の5年間の間に日本を始めとしたO.H系が主流な市場に受け入れられるO.T系が育成発表されてくるのだろうか？

果たしてアジアや世界の球根産地生産者はどちらを支持していくのだろうか？

興味深いところです。

A.H/L.Aの流れを見直してみると、L.Aが伸びたことは間違いないのですが、むしろA.Hが減少したという分析の方が正しいような気がします。(Plamvが今後のO.H系面積推移に与える影響は？面積減少(有効面積)が進みやすくなっている？)

合わせて2010~2012の3年間に限って言えば、A.Hの減少は止まっているという分析もできるようです。

L.Aでは対応できない市場、花色がまだあるという事か？A.H系トザンなどの事？赤系L.Aはまだ不十分？そう考えれば、O.H系も残りえる？

A.H/L.AとO.H/O.Tでは、その球根生産体系/切花・生産・消費・構造、全てにおいて違います。

同じ動きにはならないことを願っています。

それにしてもPlamv対策です。55haも生産がある品種なのに、未だ契約凍結できない状態…。(簡単に引き受けてくれる輸出業者もいるのですが…怖くて…)

***面積非公開品種/公開品種の品目別面積差異は、弊社ホームページ上で、修正バージョンを載せておきますので、そちらでご確認ください。**

よろしく願い致します
詳細はお問い合わせください。

森山隆